



ハムスターはなぜ生まれたときは産毛が生えていないの

育つ場所が安全なため

ハムスターは、もともと、地面に穴をほってすんでいます。巣穴は育児室、ふん場、食料貯蔵室などに分かれています。巣穴の中は、敵におそわれることもなく安全です。育児室には、やわらかくかみくだいた草などが、しきつめられているので赤ちゃんははだかでもだいじょうぶです。

子どもを安全に育てられる動物は、一般に、赤ちゃんは丸裸で生まれる場合が多いのです。イヌやカイウサギなどが、同じような丸裸の赤ちゃんを産みます。同じウサギでも、巣穴をつくらぬウサギの赤ちゃんは、毛が生えて生まれます。

生まれてすぐに歩かなければ、危険にさらされる動物

草原でくらす馬やレイヨウは、これとまったく逆で、生まれた子はすぐに歩けなくては敵におそわれます。毛も生え、目も見える状態で生まれ、数時間もすれば、もう親のあとについて歩けます。地上に巣をつくるキジやガンカモのヒナも、生後すぐ歩ける状態で生まれます。（監修・今泉 忠明）

